

熊本商工会議所・第56回 経営動向調査

平成22年6月期 結果報告書

業況DI ▲29.6 (前期比+9.3) で3期連続で改善

～全業種で改善、飲食業は4期ぶりに大きく改善～

調査結果のポイント

全業種の業況DI値は▲29.6で、前回(平成22年3月期)調査の▲38.9に比べ+9.3ポイント改善した。前回調査から全ての業種で業況が改善し、特に飲食業では▲26.1ポイント(前期比+33.9ポイント)と大きく改善した。

今回の調査で業況を全体的に見ると、建設業(職別・設備)、飲食業、サービス業で仕入単価の上昇、卸売業、小売業、飲食業で販売(受注)・客単価の下落が見られたものの、全業種とも売上高が上昇し、建設業(職別・設備)を除く6業種で採算(営業利益)が上昇したことで、業況DIは▲29.6と改善した。

製造業では3期連続の改善、卸売業、サービス業では2期連続の改善、飲食業では2期ぶりの改善を示す一方、その他の業種では改善・悪化を繰り返す不透明な状況となっている。中でも小売業においては、▲45.9ポイントと前回より0.5ポイント改善したものの、ほぼ横ばいの状態で、他の業種と比較しても低い水準で推移しており、依然厳しい状況が続いている。

来期(平成22年7～9月)の業況見通しについては、全業種の業況DI値は▲10.8と依然厳しい見通しではあるものの、小売業、サービス業を除く5業種で改善傾向を示すなど明るい業況見通しとなった。悪化となった小売業、サービス業についてもマイナス幅は1.4から1.5とわずかであった。

調査先からの意見として、依然、消費低迷やデフレの影響のほか、業者間の競争激化による受注単価の下落、猛暑による来客数の減少などの声が多い一方で、中元時期による売上増や、梅雨明けやワールドカップ終了による来客数の増加、過去の見積分の受注獲得を期待する声も聞かれた。

- ・ 調査対象期間 平成22年4月～6月(平成22年度 第1四半期)
 - ・ 調査期間 平成22年6月28日(月)～7月2日(金)
 - ・ 調査対象数 熊本市内 小規模企業 400事業所
 - ・ 回答数 281事業所(回答率70.3%)
- ※ 小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業をいう。

《業種別回答状況》

対象業種	対象企業数	回答企業数	回答率(%)
製造業	39	26	66.7
建設業(土木・建築)	44	33	75.0
建設業(職別・設備)	55	39	70.9
卸売業	47	33	70.2
小売業	88	66	75.0
飲食業	39	23	59.0
サービス業	88	61	69.3
合計	400	281	70.3

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表すものである。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした前回(22年3月期)調査と比較した概況

【全業種】

製造原価・仕入(材料等)単価はわずかに改善し、販売(受注)・客単価はわずかに悪化した。売上高は改善し、採算(営業利益)は少し改善した。

〈製造業〉

製造原価、販売(受注)単価とも改善した。売上高は少し改善し、採算(営業利益)は改善した。

〈建設業(土木・建築)〉

仕入単価、受注単価ともに改善した。売上高、採算(営業利益)ともに改善した。

〈建設業(職別・設備)〉

売上高は改善し、受注単価もわずかに改善した。仕入単価はわずかに悪化し、採算(営業利益)も少し悪化した。

〈卸売業〉

仕入単価は少し改善し、売上単価は大きく悪化した。売上高は大きく改善し、採算(営業利益)は少し改善した。

〈小売業〉

仕入単価は改善したが、客単価はやや悪化した。売上高は少し改善し、採算(営業利益)はやや改善した。

〈飲食業〉

仕入単価は少し悪化し、客単価も悪化した。売上高は改善し、採算(営業利益)も改善した。

〈サービス業〉

仕入単価(材料等)は悪化した。客単価は少し改善した。売上高は少し改善し、採算(営業利益)はやや改善した。

業種別の業況一覧

上段＝対前期比
下段＝対前年同期比

業種	今回調査 (22年6月期)	前回調査 (22年3月期)	今回調査との 比較ポイント
全業種	▲ 29.6	▲ 38.9	9.3
	▲ 34.4	▲ 38.0	3.6
製造業	▲ 38.5	▲ 50.0	11.5
	▲ 42.3	▲ 42.9	0.6
建設業 (土木・建築)	▲ 28.1	▲ 33.3	5.2
	▲ 25.8	▲ 33.3	7.5
建設業 (職別・設備)	▲ 36.8	▲ 40.7	3.9
	▲ 39.5	▲ 40.7	1.2
卸売業	▲ 25.0	▲ 37.5	12.5
	▲ 42.4	▲ 37.5	▲ 4.9
小売業	▲ 43.9	▲ 44.4	0.5
	▲ 52.3	▲ 46.3	▲ 6.0
飲食業	▲ 26.1	▲ 60.0	33.9
	▲ 21.7	▲ 60.0	38.3
サービス業	▲ 10.0	▲ 24.5	14.5
	▲ 13.3	▲ 22.6	9.3

来期(22年7~9月期)の業況見通し

全業種における来期(22年7~9月期)の業況見通しのD I値は▲10.8となり、22年3月期の前回調査の業況D I値▲20.3と比較して9.5ポイント改善した。

前回調査と比較して来期の業況見通しのD I値が改善する業種は、小売業、サービス業以外の5業種で、建設業(土木・建築)、卸売業では大きく改善する見通しとなった。一方、業況見通しが悪化となった小売業、サービス業ではそれぞれ▲31.7、▲3.6と厳しい状況ではあるものの、マイナス幅の拡大は1.4~1.5とわずかであった。

業種別の来期における業況見通しは、次の一覧のとおり。

業種	今回調査 (22年6月)	前回調査 (22年3月)	今回調査との比較
全業種	▲10.8	▲20.3	9.5
製造業	▲20.0	▲39.3	19.3
建設業 (土木・建築)	▲3.1	▲25.0	21.9
建設業 (職別・設備)	▲17.6	▲18.5	0.9
卸売業	3.2	▲20.8	24.0
小売業	▲31.7	▲30.2	▲1.5
飲食業	18.2	12.5	5.7
サービス業	▲3.6	▲2.2	▲1.4